



2022年3月期 決算説明資料

2022年5月24日
テイカ株式会社
(証券コード：4027)

目次

1. 2022年3月期 決算概要

- P 4 決算概要
- P 6 事業別売上高・営業利益
- P 7 機能性材料事業 売上高、営業利益増減要因
- P 8 電子材料・化成品事業 売上高、営業利益増減要因
- P 9 営業外損益、特別損益
- P 1 0 2022年3月期 貸借対照表
- P 1 1 2022年3月期 キャッシュフロー計算書

2. 2023年3月期 通期業績予想

- P 1 3 2023年3月期 業績予想
- P 1 5 2023年3月期 業績予想(事業別売上高、営業利益、EBITDA)
- P 1 6 機能性材料事業 業績計画
- P 1 7 機能性材料事業 営業利益増減要因
- P 1 8 電子材料・化成品事業 業績計画
- P 1 9 電子材料・化成品事業 営業利益増減要因
- P 2 0 経営指標

3. 付属資料

- P 2 2 長期経営ビジョン
- P 2 3 中期経営計画
- P 2 4 設備投資・減価償却費・研究開発費
- P 2 5 株主還元(配当金)
- P 2 6 会社概要
- P 2 7 事業紹介



1. 2022年3月期 決算概要

決算概要

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、ワクチン接種の普及に伴う経済活動の再開や海外経済の改善等により、景気は持ち直しの動きが見られました。しかしながら、ウクライナ情勢等の地政学リスクや原燃料価格の高騰、急激な円安の進行等により、依然として先行きは不透明な状況で推移しました。

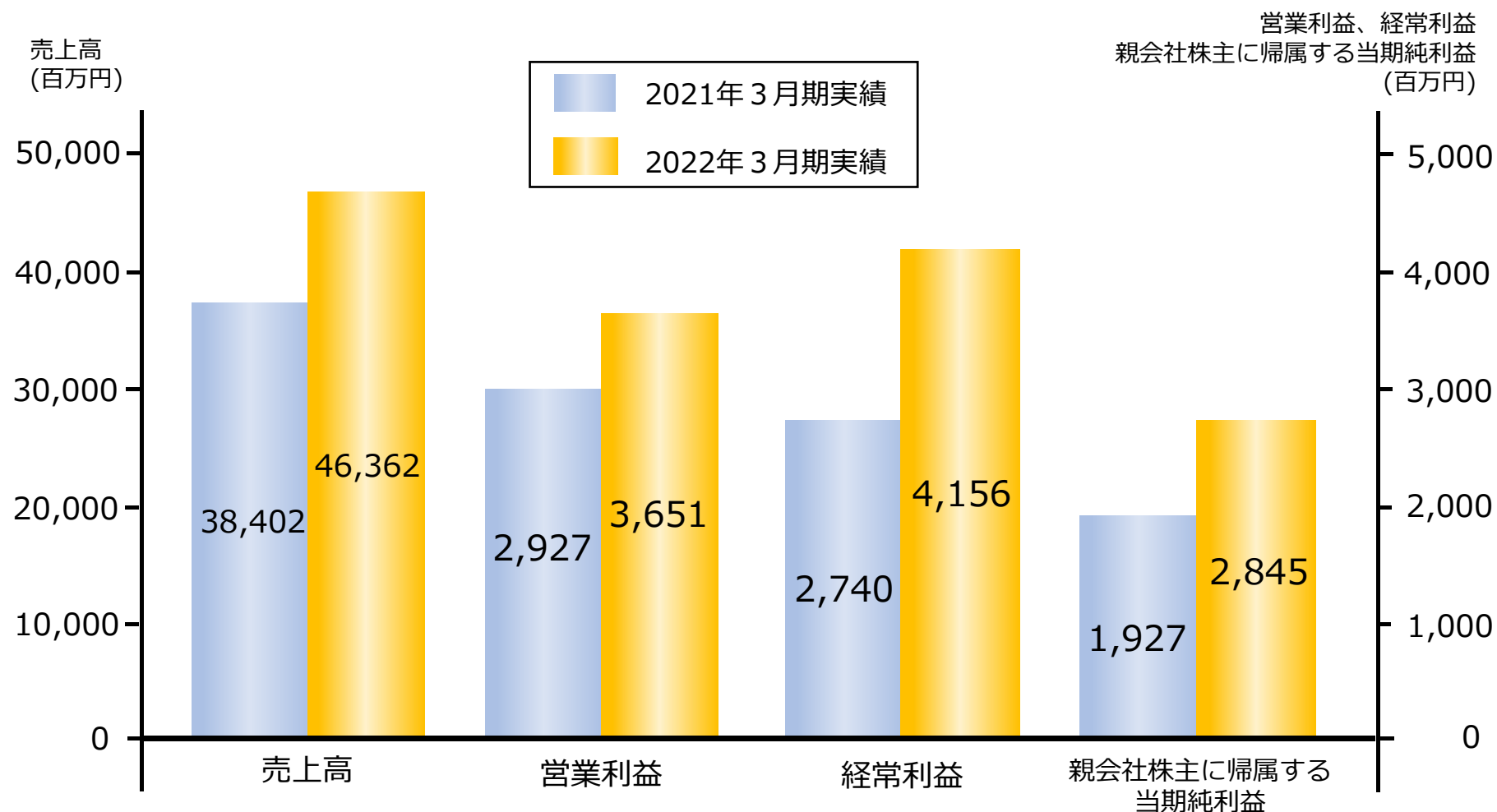
このような状況の中、輸出を中心に汎用用途の酸化チタン、機能性微粒子製品の販売が回復し、圧電材料を含む電子材料等の販売も好調に推移し、各連結子会社の売上も増加する結果となりました。

2022年3月期 連結経営成績

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比 (%)
売上高（百万円）	38,402	46,362	+20.7
営業利益（百万円）	2,927	3,651	+24.7
経常利益（百万円）	2,740	4,156	+51.6
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	1,927	2,845	+47.6

決算概要

当連結会計年度の業績につきましては、売上高は463億6千2百万円（前期比20.7%増）、営業利益は36億5千1百万円（前期比24.7%増）、経常利益は41億5千6百万円（前期比51.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は28億4千5百万円（前期比47.6%増）となりました。



事業別売上高・営業利益

(単位：百万円)	2021年3月期実績		2022年3月期実績		前期比 (%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機能性材料事業	19,442	912※	22,827	998	+17.4	+9.4
電子材料・化成品事業	17,713	1,813	22,155	2,325	+25.1	+28.2
小 計	37,156	2,725	44,982	3,323	+21.1	+21.9
その他	1,245	201	1,379	327	+10.8	+54.0
合 計	38,402	2,927	46,362	3,651	+20.7	+24.7

※2021年3月期実績には営業外費用に操業休止関連費用826百万円を計上しております。

事業内容

【機能性材料事業】

主に酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品を製造、販売

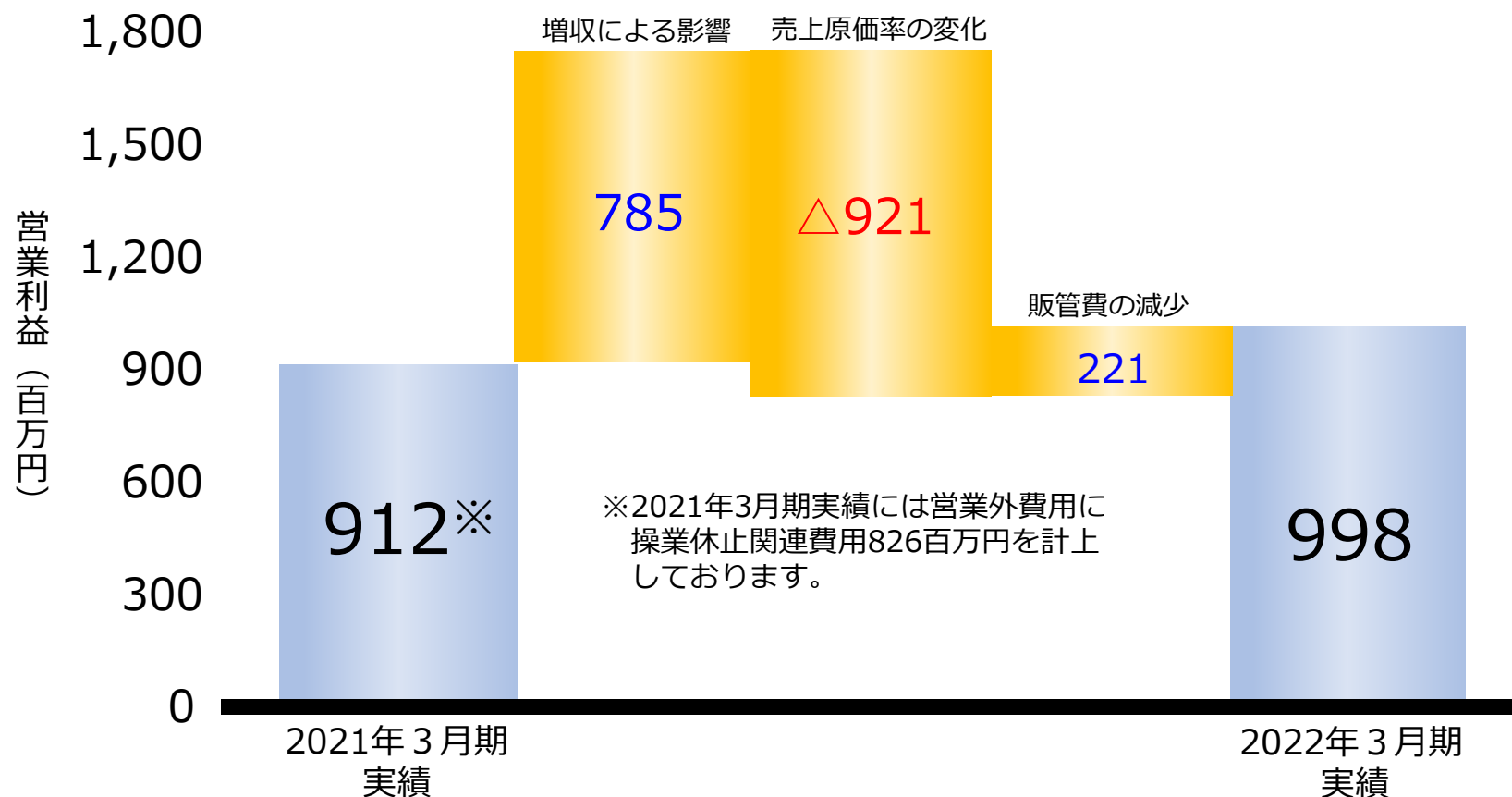
【電子材料・化成品事業】

主に圧電材料、導電性高分子薬剤、界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料を製造、販売

なお、「その他」は、倉庫業、エンジニアリングおよびセグメント間取引消去額を含んでおります。

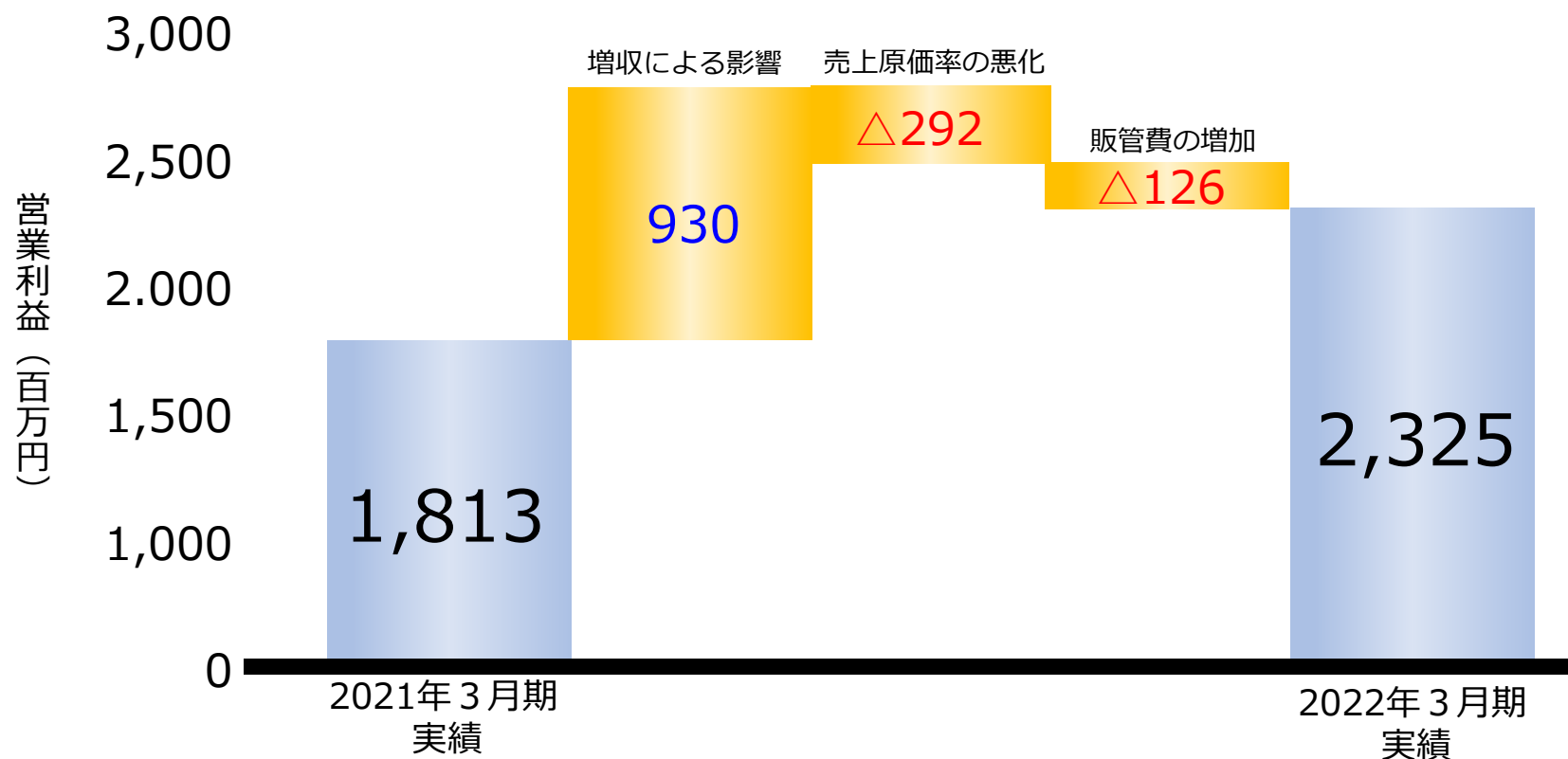
機能性材料事業 売上高、営業利益増減要因

- 汎用用途の酸化チタンは、新型コロナウイルス感染症により低迷していた需要が回復したこと、原燃料価格の高騰に伴う販売価格改定を進めたことにより、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。
- 機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面处理製品の販売は、米国、中国等の海外を中心に回復したことにより、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。



電子材料・化成品事業 売上高、営業利益増減要因

- 圧電材料は、海外連結子会社も含め医療機器用の販売が好調に推移したため、売上高は前期を上回りました。
- 導電性高分子薬剤は、I C T、5 G インフラなどの需要が堅調に推移し、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。
- 界面活性剤は、販売数量は前期並みとなりましたが、販売価格改定を進めたこと、海外連結子会社の販売が好調に推移したことにより、売上高は前期を上回りました。
- 無公害防錆顔料は、海外顧客向け販売が堅調に推移し、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。



営業外損益、特別損益

【営業外損益】

前期に比べて為替差益が増加し、収支はプラスになりました。

科目 (百万円)		2021年3月期	2022年3月期	前期比
営業外損益	金融収支	165	178	13
	為替差損益	24	251	227
	受取補償金等	282	—	△282
	操業休止関連費用	△826	—	826
	その他	168	73	△94
	計	△186	504	691

【特別損益】

出資金売却益、リース解約益および固定資産除却損により収支はマイナスになりました。

科目 (百万円)		2021年3月期	2022年3月期	前期比
特別損益	投資有価証券売却益	129	5	△123
	本社移転補償金・費用	167	—	△167
	固定資産除却損	△261	△157	103
	出資金評価損	△48	—	48
	出資金売却益	—	67	67
	リース解約益	—	21	21
	計	△12	△62	△50

2022年3月期 貸借対照表

- 現預金は前期末比2億円減の130億円、売掛債権は26億円増の140億円、有形固定資産は3億円減の172億円、投資その他資産は18億円減の109億円であります。

科目 (百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比
流動資産	36,979	42,300	5,321
現預金	13,329	13,060	△268
売掛債権	11,395	14,089	2,694
棚卸資産	11,623	14,321	2,698
その他	631	828	197
固定資産	32,198	29,827	△2,370
有形固定資産	17,624	17,246	△377
無形固定資産	1,767	1,628	△139
投資その他資産	12,806	10,953	△1,853
資産合計	69,177	72,128	2,950

科目 (百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比
負債	18,947	20,865	1,917
買掛債務	3,914	6,873	2,958
有利子負債	6,543	5,007	△1,536
引当金	350	360	10
退職給付に係る負債	3,152	3,152	0
その他	4,986	5,471	485
純資産	50,230	51,263	1,033
株主資本	43,714	45,725	2,010
その他包括利益累計他	6,515	5,537	△977
資産合計	69,177	72,128	2,950

2022年3月期 キャッシュフロー計算書

- 当期は営業CFで投資CF及び財務CFをカバーしましたが、現金等が前期に比べて減少しました。

(百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比
営業キャッシュフロー	4,953	4,841	△111
税金等調整前当期純利益	2,728	4,093	1,364
減価償却費	2,737	3,212	474
運転資金等	867	△1,632	△2,499
法人税等支払額	△1,380	△831	549
投資キャッシュフロー	△4,905	△2,807	2,098
固定資産の取得・売却	△4,857	△2,473	2,383
投資有価証券の取得・売却	169	△87	△256
投融資資金等	△216	△245	△29
財務キャッシュフロー	2,519	△2,363	△4,883
借入金・社債増減等	3,449	△1,524	△4,973
自己株式取得・売却	△0	△0	△0
配当金支払額	△929	△838	90
現金及び現金同等物に係る換算額	△29	60	90
現金及び現金同等物の増減額	2,537	△268	△2,805
現金及び現金同等物の期末残高	13,250	12,981	△268



2. 2023年3月期通期 業績予想

2023年3月期 業績予想

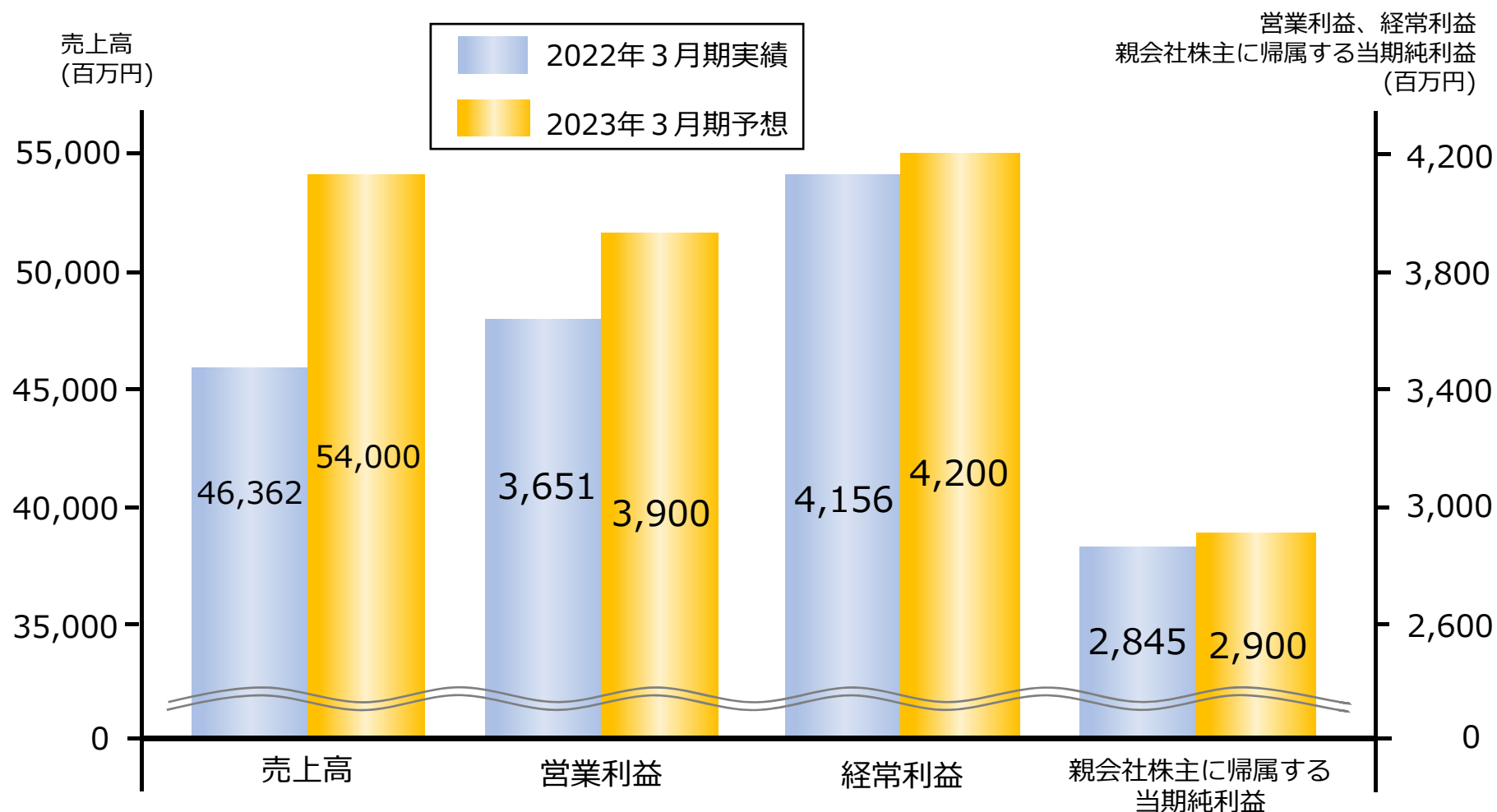
今後の経済見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株による感染再拡大、ウクライナ情勢に伴うサプライチェーンに対する影響への懸念もあり、先行きは不透明な状況で推移すると予想されます。

2023年3月期 連結業績予想

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減 (%)
売上高（百万円）	46,362	54,000	+16.5
営業利益（百万円）	3,651	3,900	+6.8
経常利益（百万円）	4,156	4,200	+1.1
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	2,845	2,900	+1.9

2023年3月期 業績予想

2023年3月期の連結業績予想につきましては、売上高は540億円（前期比16.5%増）、営業利益は39億円（前期比6.8%減）、経常利益は42億円（前期比1.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は29億円（前期比1.9%増）となります。



2023年3月期 業績予想(事業別売上高、営業利益、EBITDA)

【機能性材料事業】

機能性材料事業は増収、増益となる計画であります。

【電子材料・化成品事業】

電子材料・化成品事業は増収となるも、減益の計画であります。

(単位：百万円)	2022年3月期実績			2023年3月期予想		
	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA
機能性材料事業	22,827	998	3,296	28,040	1,580	3,650
電子材料・化成品事業	22,155	2,325	3,369	24,610	2,050	3,150
小 計	44,982	3,323	6,665	52,650	3,630	6,800
その他	1,379	328	441	1,350	270	380
合 計	46,362	3,651	7,106	54,000	3,900	7,180

(注)

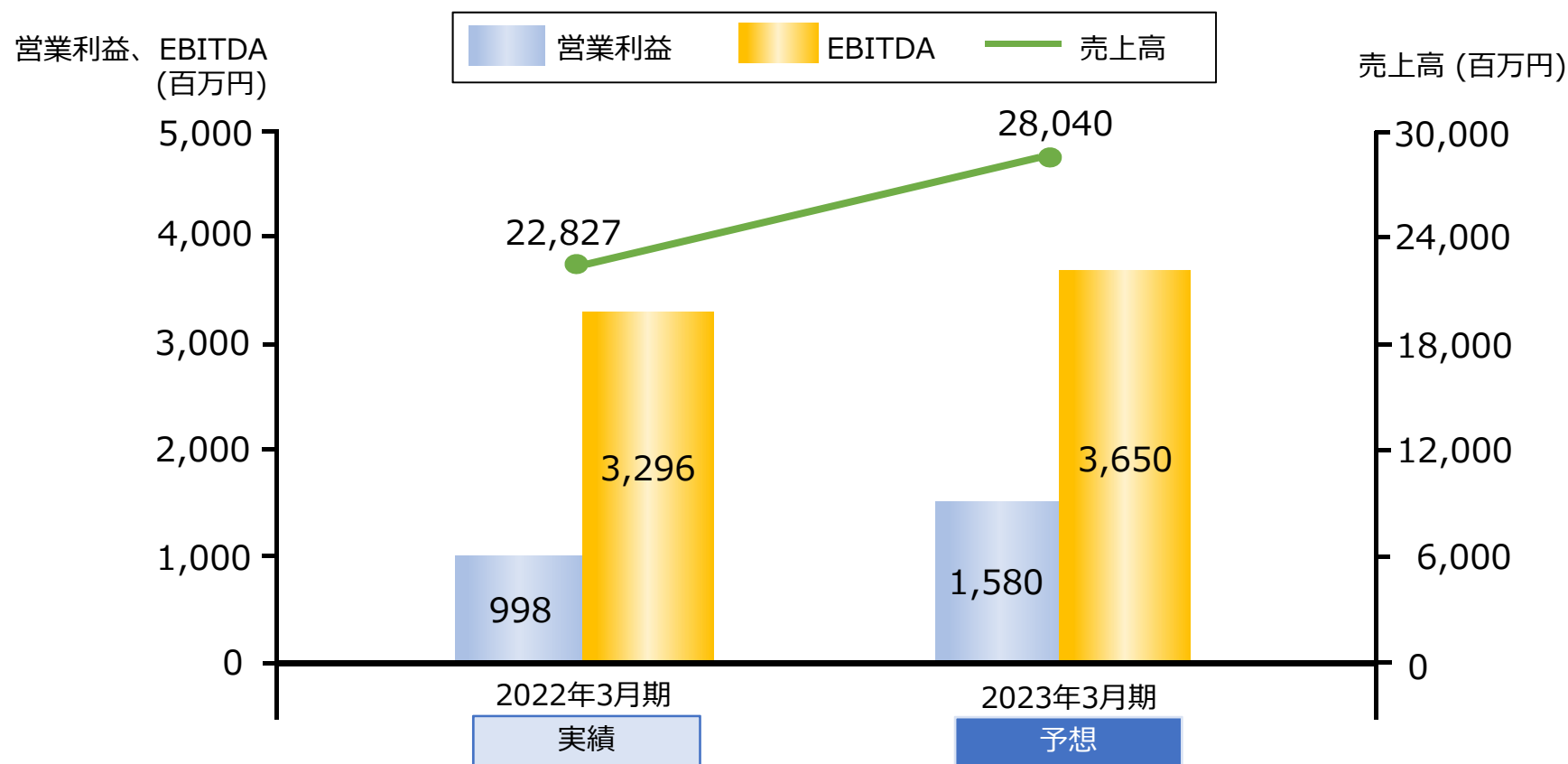
2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

機能性材料事業 業績計画

【事業環境の見通し】

汎用用途の酸化チタンに関しましては、需要回復の兆しはあるものの、原燃料価格の高騰により、今後も収益面で厳しい状況になると予想しております。

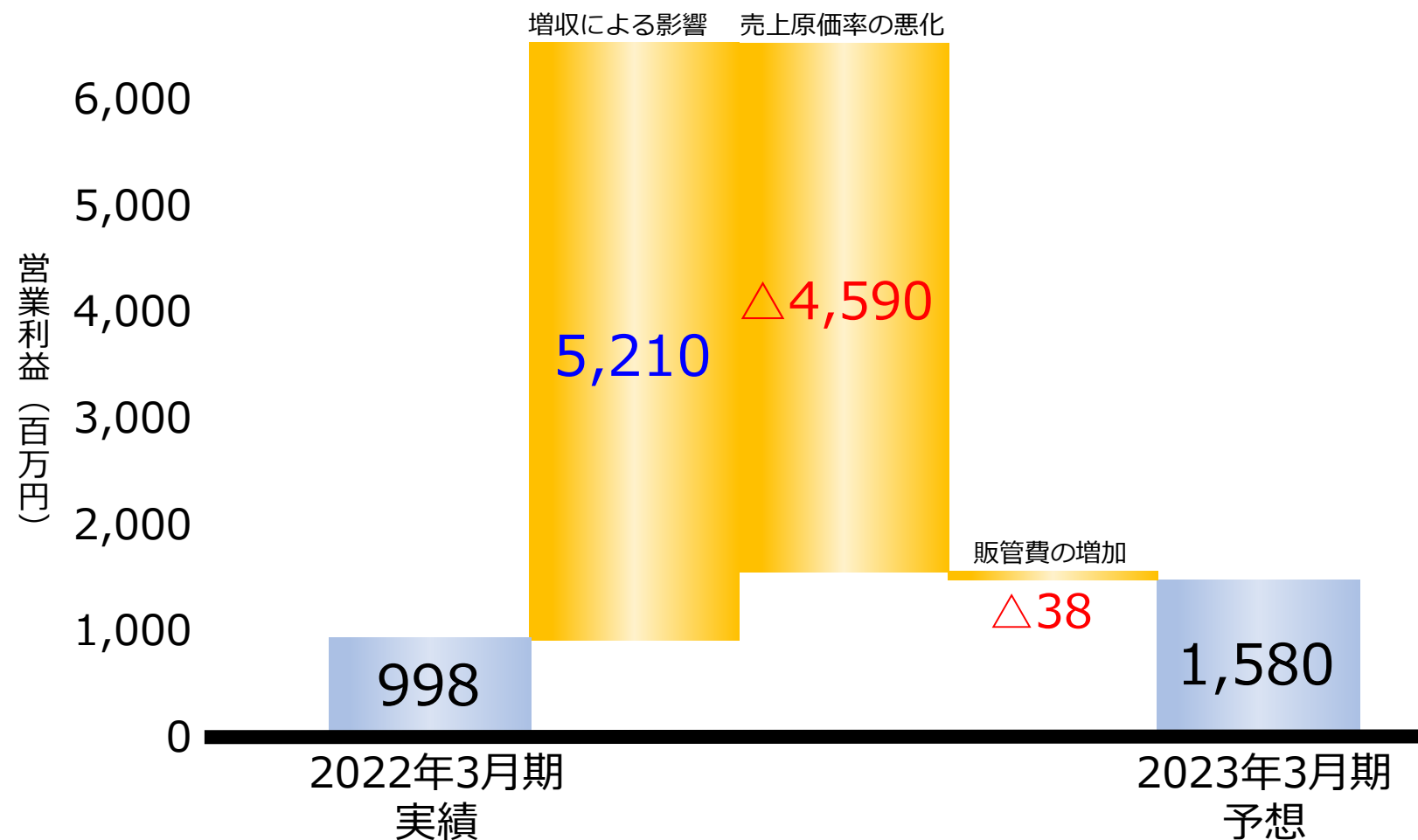
機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛及び表面処理製品に関しましては、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響で主用途であるUVカット剤需要が激減しておりましたが、ワクチン接種の普及による経済活動の段階的な再開が進んでおり、今後欧米だけでなく、アジア地域でも需要は回復していくものと予想され、市況を注視しつつ販売維持・拡大に努めます。



機能性材料事業 営業利益増減要因

【営業利益】

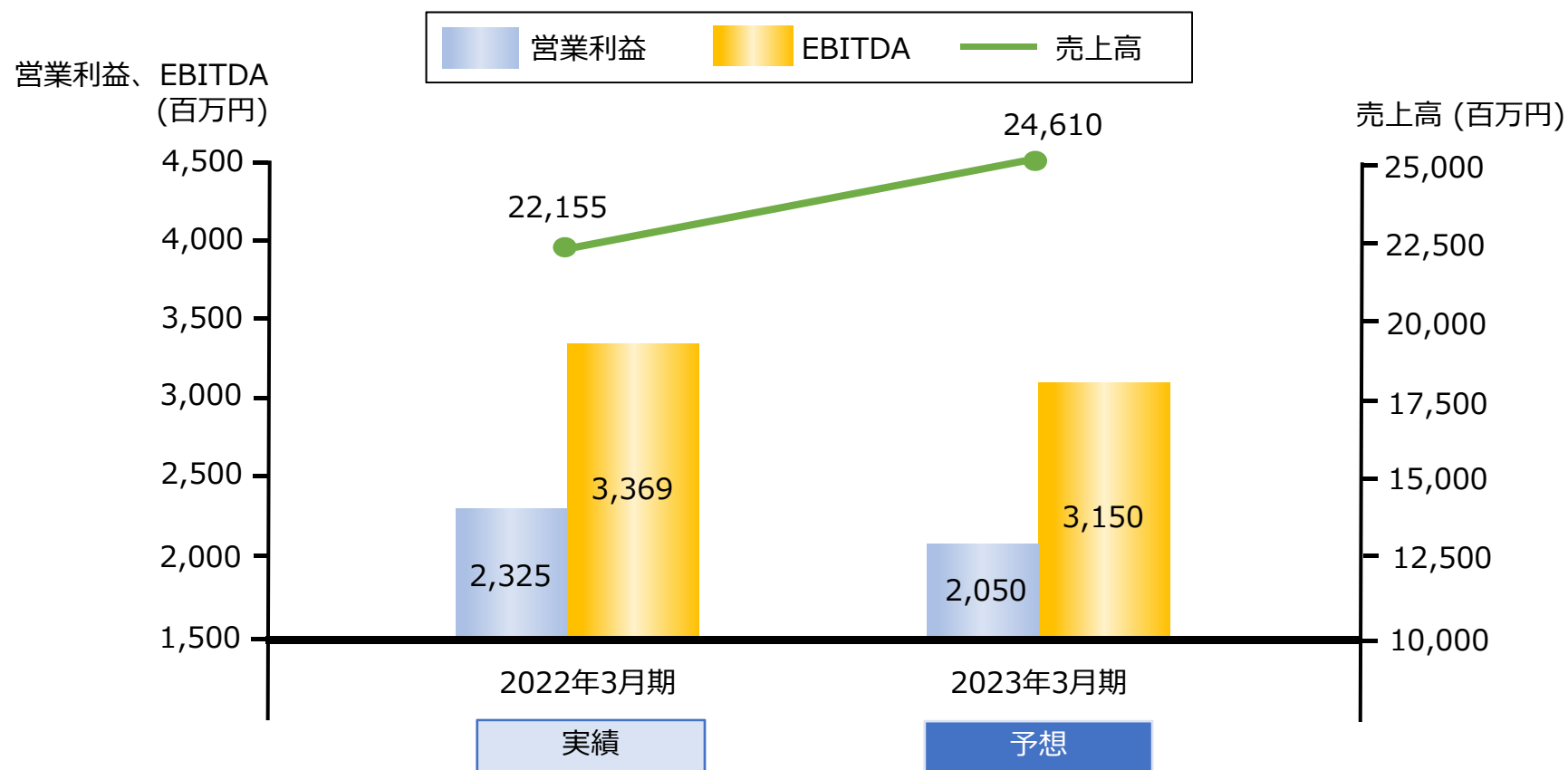
原燃料価格の高騰による売上原価率の悪化はあるものの、販売増加および販売価格改定が利益を押し上げる見通しであります。



電子材料・化成品事業 業績計画

【事業環境の見通し】

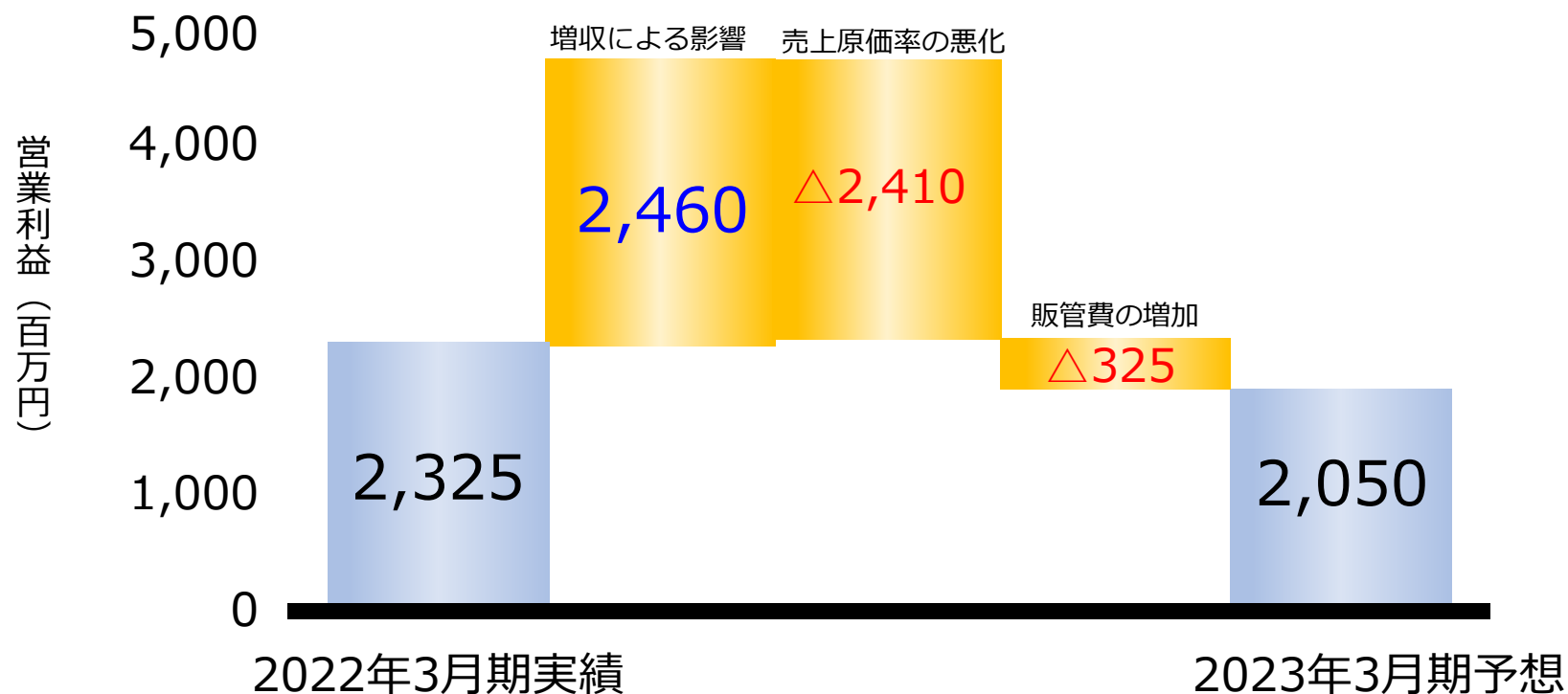
電子材料に関しましては、国内外で需要が好調に推移するものと予想しており、特に圧電材料については、2022年1月末に完成した「圧電単結晶材料量産工場」の稼働に伴い、日本と米国の両製造拠点を確保したため、世界各国への安定的な製品供給により、更なる拡販に努めてまいります。また、化成品事業に関しましては、洗剤など日用品向けの需要は堅調に推移すると見ており、タイ・ベトナムの海外連結子会社とともに、世界各地での需要に対応に力を注ぎます。



電子材料・化成品事業 営業利益増減要因

【営業利益】

原燃料価格の高騰や設備償却費負担の増加が利益を押し下げる見通しであります。



経営指標

● 経営指標

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想
1株当たり当期純利益（円）	83.16	122.79	125.13
自己資本利益率（ROE）	4.0	5.6	5.6
総資本経常利益率（ROA）	4.1	5.9	5.9
売上高営業利益率	7.6	7.9	8.4
自己資本比率	72.1	70.6	74.2



3. 付属資料

長期経営ビジョン

収益性を重視した活動を行い、汎用品から機能品へポートフォリオシフトを加速することで更なる業容拡大と収益基盤の強化を努めます。

(1) 基本方針

「まじめに感動素材」のもと、お客様と真摯に向き合い、妥協なく試行錯誤を行う中から、よりよいソリューションを実現します。

(2) **MOVING-10**の目指す経営指標

10年後の164期（2029年度）に以下の経営指標を目指します。

目標経営指標	目標値
営業利益率	15%以上
ROE	12%以上

中期経営計画

「変革による拡大」と「新素材の創出」に重点的に取り組むことで、長期経営ビジョン達成に向けた業容拡大と収益基盤の強化を図ります。

(1) 活動のポイント

- ① 機能性化学品および電子材料事業の更なる拡大（ポートフォリオシフト加速）
- ② 環境エネルギー分野の育成、上市（次世代担う2本目の柱）
- ③ 新たな素材の創出促進（キーワード 「ニッチ市場」×「伸長分野」）
- ④ 業務効率化の推進（生産性向上、自動化）
- ⑤ 人財育成の推進（ダイバーシティ、働き方改革）
- ⑥ S D G s 経営推進による企業価値向上

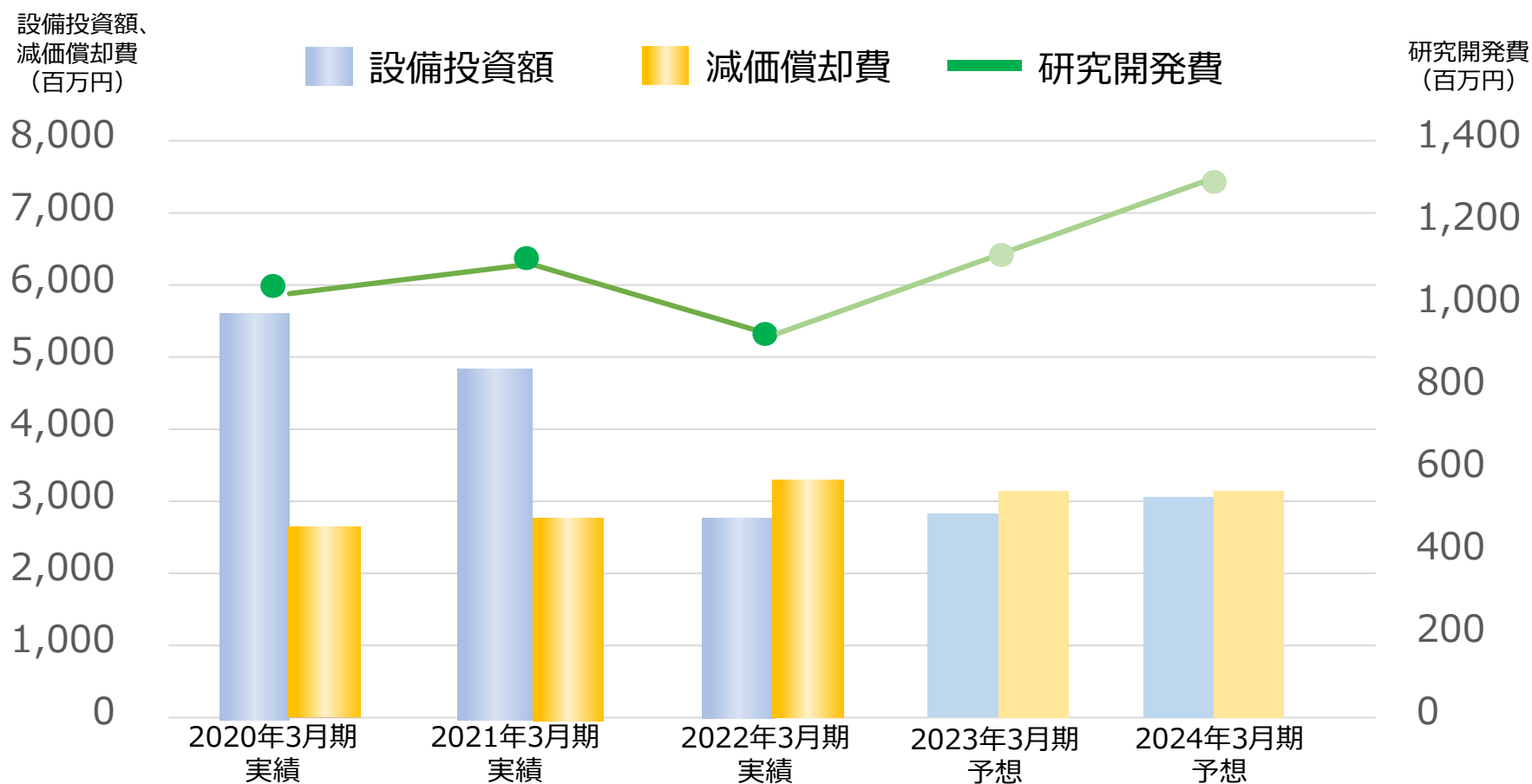
(2) 目標経営指標

目標経営指標	最終年度 2024年3月期
売上高	5 5 0 億円
営業利益	7 5 億円
営業利益率	1 4 %
R O E	9 %
E B I T D A	1 1 0 億円

設備投資・減価償却費・研究開発費

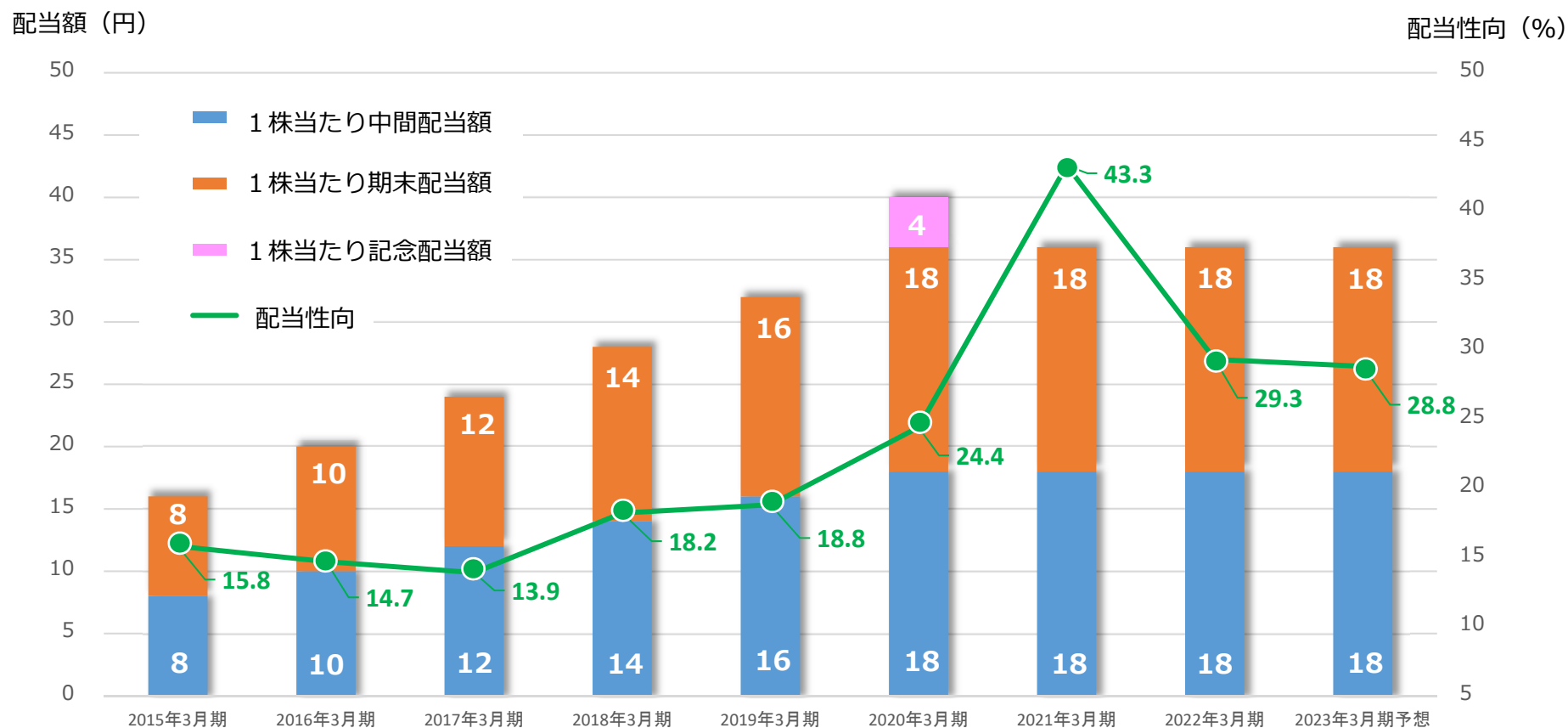
【設備投資額、減価償却費、研究開発費について】

当社グループ全体のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するため、2021年6月に「DX推進室」を設置、今後さらなる設備投資を行っていく予定であります。



株主還元(配当金)

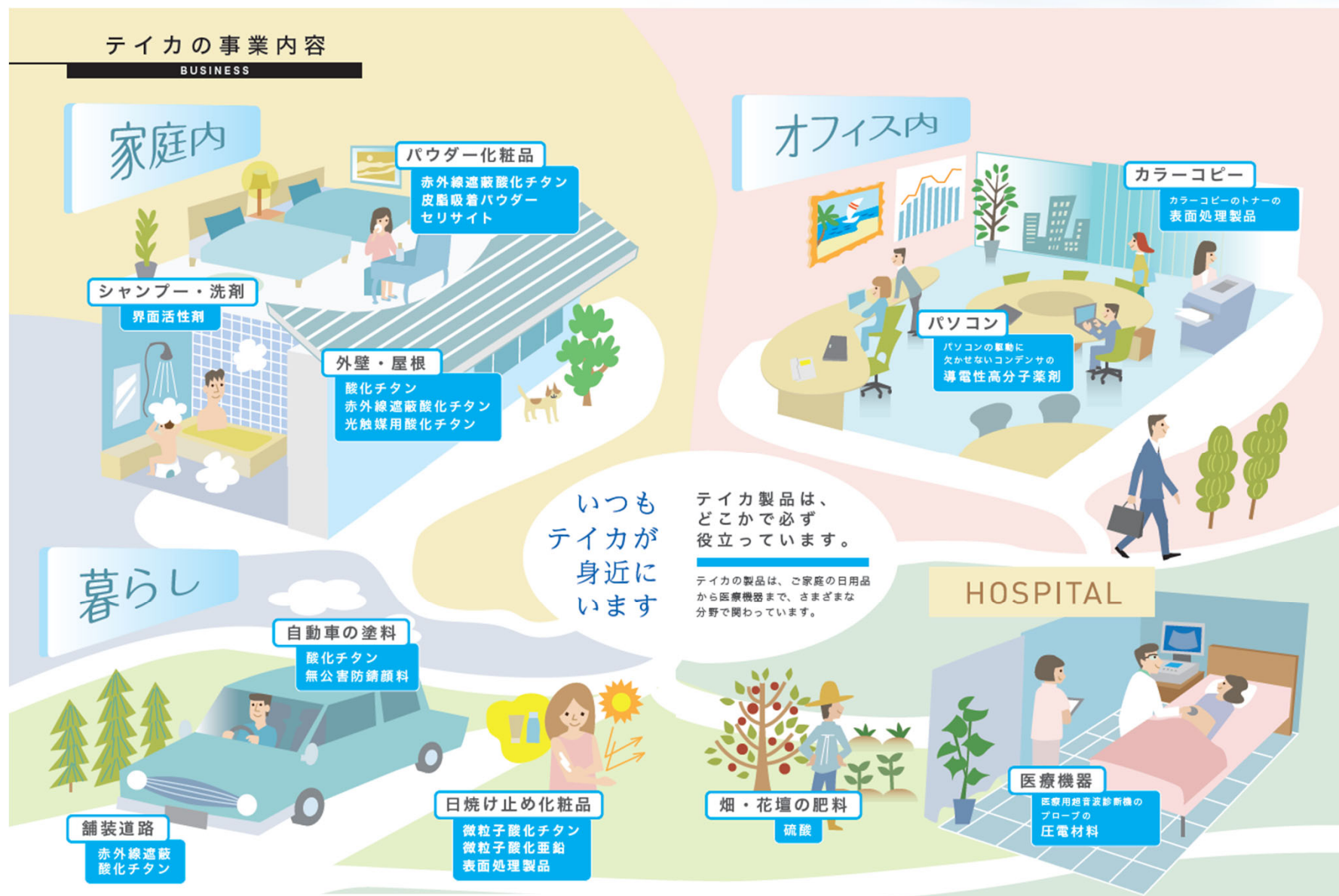
- 当社は基本的に株主に対する安定した利益還元を重要項目と認識し、必要となる十分な株主資本の水準を保持するとともに、各期の業績等を総合的に判断して配当を実施することとしております。



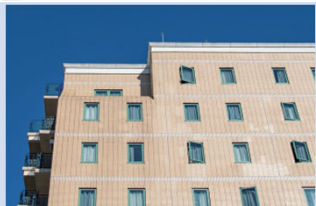
会社概要

- 社名 テイカ株式会社 TAYCA CORPORATION
- 創立年月日 1 9 1 9 年（大正 8 年） 1 2 月 2 2 日
- 資本金 資本金 9 8 億円
- 年商 4 6 3 億円（連結 2022年3月期）
- 従業員数 8 2 5 名（連結 2022年3月31日現在）
- 上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4027）
- 事業内容
各種化学工業薬品の製造、販売
酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品、
圧電材料、導電性高分子薬剤、界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料 等

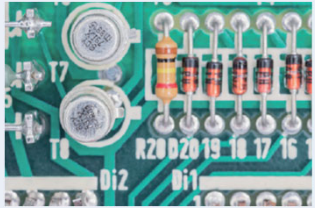
事業紹介



事業紹介（機能性材料事業）

	製品名	用途	概要
機能性材料事業	酸化チタン		酸化チタンは優れた白色顔料として、塗料、インキ、プラスチック、化学繊維、製紙など白いものはもちろん、色のついたもののほとんどに使用されています。 また、白色度、着色力、安全性、化学的安定性など優れた性質をもち、社会のあらゆる分野で役立っています。
	微粒子酸化チタン		微粒子酸化チタンは、一般の白色顔料用酸化チタンに比べてはるかに小さい10～50nmの粒子径を有する超微粒子であるため、例えば、可視光線部における光透過性と紫外部での光遮蔽性が大きい等の特徴ある性質を備えており、しみの原因となる紫外線UVBの遮蔽性に優れています。
	微粒子酸化亜鉛		微粒子酸化亜鉛は、微粒子酸化チタン同様、優れた紫外線遮蔽能力を持つ機能性粉体です。微粒子酸化チタンと比較して、可視部における透明性が高く、しわ、たるみの原因となる紫外線UVAの遮蔽性に優れています。
	表面処理製品		微粒子酸化チタンや微粒子酸化亜鉛等の無機粉体が持つ優れた特徴を最終製品で発揮できるよう、各種有機化合物で表面処理した粉体製品です。表面処理を行うことにより、粉体表面が親水性や親油性に改質され、耐光性や分散性などの特長を付与できます。化粧品原料、プリンターのトナー用外添剤はじめ幅広い分野で使用されています。
	光触媒用酸化チタン		光触媒用酸化チタンは、紫外線や水・酸素などのクリーンなエネルギーによって発現する酸化チタンの酸化力を利用し、有害な有機物を分解・除去します。これら光触媒効果を活用した、汚れ防止効果を付与した外壁や脱臭効果を付与したインテリア等が実用化されています。

事業紹介（電子材料・化成品事業）

	製品名	用途	概要
電子材料・化成品事業	圧電材料		圧電材料は、電圧を加えることで、伸縮を繰り返し振動する現象を利用し超音波を発生させることができます。エコー検査に使われる医療用超音波診断機はこの機能を利用しています。発生した超音波から画像を映し出すことで、エックス線などは使わず、体の中を安全に調べることができますので妊婦検診や心臓・腹部等の診断で多く使われています。
	導電性高分子薬剤		白川英樹博士のノーベル賞受賞で知名度が広まった導電性高分子。添加物を加える「ドーピング」で、プラスチックのような電気が流れない絶縁体を電気が流れる「導電体」に変えます。当社はいち早くこの性質に着目し、当社固有技術と融合させ、様々な要求特性に対応した導電性高分子薬剤を開発。パソコンの駆動に欠かせないコンデンサに使用されています。
	界面活性剤		界面活性剤は、水と油の両方になじみやすい性質をもち、洗浄、乳化、分散、可溶化などの働きを利用して、洗剤、シャンプーなど生活用品から工業分野にまで広く使用されています。
	無公害防錆顔料		当社は、リン酸塩の研究を長年続けた結果、世界に先駆けてリン酸塩Kシリーズ、無公害型防錆顔料の量産技術を確立し工業化したしました。地球環境にやさしい技術として、防錆剤、硬化剤、吸着剤など多用途に利用され高い評価を得ています。
	硫酸		硫酸は医薬品、化学肥料といった化学品産業から金属、鉄鋼といった重工業まであらゆる分野での基礎原料となっています。当社では、創立当初より硫酸の製造を開始。この硫酸を基礎原料に酸化チタン、界面活性剤の製造に着手してきました。